

### 持経宿お堂のハチの巣除去

◇ 実施日； 8月11日（水） 晴のち曇

◇ 参加者； 沖崎吉信、梶野照雄、山川治雄 3名

8月1日の平治宿水場径改修後、持経宿のお堂にハチが巣を作っていることが判明した。奥駆道のすぐ傍なので、足音や振動でハチが興奮して人を刺しに来ることが予想され、出来るだけ早く駆除することを考えていたが、天候などの都合で10日後の本日駆除を行った。

て白谷林道ゲートに向かった。

ゲートに着くと沖崎さんが先着していた。走行中に車の警告ランプが点灯したそうで、沖崎車を置いて、山川、梶野の2車で持経宿に向かった。林道は概ね変化なしだったが、台風9号の風で落ちたと思われる枯枝が多く、何回か車を降りて取り除いた。

40分で持経宿に到着、すぐに蜂の巣の除去を始めた。

外壁トタン裾の隙間からスプレーを噴射、3〜4回噴射すると中からハチがどんどん出てきた。ハチ用のスプレーは効果がすぐに表れるので、出てきたハチが飛び回ることは無い。

ハチが殆ど出てこなくなったので、外壁トタンを剥がす。沖崎さんが釘を抜き、ドア側の隙間にボールを入れてトタンを剥がした。お堂基礎のすぐ上に、直径20cm強の巣があった。



裾の隙間から出入り



一番下に巣が



巣を取り除く



スプレー噴射



腐食が激しい



巣を焼却

4年前に行仙宿で蜂の巣を2ヶ所除去した経験から、ハチ駆除用のスプレー2本とゴーグルや厚手のジャケット、長靴などを用意し

念のためスプレーを吹きかけてからボールでそぎ落とした。巣には幼虫がビッシリ詰まっていた、その数はおよそ400匹だっ

た。巣と幼虫はガスバーナーで焼却処分した。

トタンを剥がしてみると、お堂の柱や胴縁にかなりの腐食が見られた。腐った胴縁のすぐ下に新しい胴縁を追加して、補強と隙間塞ぎを行った。トタンを元通りに取り付ける。次回外しやすいようにコースレッド（木ネジ）で固定した。

ハチの巣が取り切れなかった場合に備えて、お堂の裏を回る迂回路を作る用意もしていたが、準備した案内板などを使うことは無かった。



外壁再取付

本日の参加者

廃材をマキに

ハチの巣の除去は完了したが、巣から外出中だったハチが次々と帰ってきた。用意してきたスプレーは殆ど使ってしまった、たまたま沖崎さんが持ってきたハチ用のスプレーも動員して帰ってきたハチを殺すが、飛び回ると、次々に現れるのでスプレーが空になり、小屋にあった殺虫スプレーを使った。ハチ用ではないので、噴射量が少なく、飛び回るハチにはあまり効果が無い。

巣に入ろうとして地上近くに降りたところを山川さんが竹ぼうきで叩き落とす。これが意外に確実性があった。50匹近くを竹ぼうきで処理できた。今回、想定外だったことは、巣に戻ってくるハチが多かったことで、今後ハチの巣を除去するときはスプレーを少し多めに用意する必要がある。

コーキング剤で扉横の隙間を塞ぎ、北側の裾の隙間にも充填する。正面を除くほかの3面（北、西、南）の裾の隙間は広く、コーキング剤では十分に塞げなかった。今後、この隙間を塞ぐ方法を考えた



登山者に対応

土のう袋を置く

支障木を切除

少し早めの昼食を摂り、林道三差路に向かう。持経宿改築時に出した廃材をまとめて積み上げていたが、今後使うことがないので薪材に使うことになった。チェーンソー2台で30cmほどに小切った。廃材の3〜4程度を切って終了する。廃材には釘が多数残っていて、それぞれのチェーンソーで数本の釘を切断した。

小屋に戻ると林道にザックが一つ置いてあった。水場に行ったようだ。ザックの主が戻ってきて沖崎さんが対応、太尾から入って本宮まで行くらしい。

登山者と別れて林道ゲートに向かう。途中の川になった場所に山川さんが用意した土のう袋を置き、ゲートすぐ手前で道にはみ出した倒木を切除した。

スペアタイヤ2本で臨んだが、今回は2台ともパンクはせず、無傷で帰り着くことが出来た。

(記：梶野)

## 行動タイム

白谷林道ゲート 09:34→10:13 持経宿 12:18→12:22 林道三差路  
↓13:02 持経宿 13:20→14:10 白谷林道ゲート